

第18回 DAAS運営委員会 議事要旨(案)

1. 日 時：2013年1月24日(木) 午後2時～午後3時30分

2. 場 所：ソーシャルインキュベーションオフィス SUMIDA セミナー室

〒100-0014 東京都墨田区本所 3-15-5 1階 Tel: 050-3786-0568

3. 出席者 敬称略 順不同

運営委員長: 三塩 (日本設計)

委 員：末富委員 (住団連)、鈴木委員、早川委員 (日本建築士会連合会)、
早川委員代理 安生氏 (日建設計)、渡辺委員 (積水ハウス)、本多委員 (山下設計)、
竺委員 (建築学会)、鯉坂委員 (JIA)

ソーシャルインキュベーションオフィス SUMIDA：上村 IM、坪田 IM

事 務 局：武藤

4. 配布資料：

資料 1 国土交通省営繕部でのDAASのデモ、打合せ等のまとめ

資料 2 -東京藝術大学総合芸術アーカイブセンターについて

-ヒアリングと連携の可能性について-打合せ

資料 3 -運営基盤の安定化へ向けた検討と体制確立について

資料 3 -参考 DAASのこれまでと、現状認識

資料 4 -アーカイブサービスについての検討

5. 議事：

■報告事項

[議案 1]

国土交通省営繕部の資料収蔵について

資料1に基づき、事務局より営繕部での打合せ内容の説明を行った。

以下のような説明及び意見交換があった。

【以下、補足説明及び意見等】

(事務局)資料は図面・写真と報告書である。全体のうち一部を公開と言うことになる。

今回は無償でデータを保管・公開するというテストケースとし、今後営繕部から継続的に資料が提供される際に、改めて委託業務として費用の提示をする予定である。費用については委員の意見も伺いながら議案4の資料4の通り検討したいと考えている。

(竺) データ化する、ストレージする、一部を公開する。ということになるだろうか。永続性を担保することになるのか。継続的な事業となれば、ストレージのデータ量

と方法を考えておくということが必要になる。

(事務局) 永続性の担保が必要になる。サーバでの保管についての設定、保険等も費用として出てくるかもしれないため、アーカイブ費用の設定に含める必要が出てくる。議案4で検討したい。

[議案2]

東京藝術大学総合芸術アーカイブセンターについて-ヒアリングと連携の可能性について-打合せ

資料2に基づき、東京藝術大学での打合せ内容の報告があった。

それについて、以下のような説明及び意見交換があった。

【以下、口頭での補足説明・意見等】

(事務局) 藝大のアーカイブセンターは特殊なアーカイブという印象でどのような連携ができるか見えてこないところはある。

(竺) 具体的にどこか DAAS が協力することについて話は出ているのだろうか。

(事務局) まだそのようなことはない。ただし教育プロジェクトも検討されているとのことで、学生のインターンという形で協力などはできないか、ということも考えている。アーカイブ学という授業はあるのだろうか。

(竺) 藝大にはまだアーカイブ学という授業はない。3D データの保存というのは国立民族学博物館が 90 年代くらいから始めており、膨大なデータがある。ただし当時のデータのテクノロジーであるので現在読み替えて利用しているのか不明である。博物館では、現物のデータを取り、そのデータからレプリカを作成し研究、シェアするなどのニーズがある。

(事務局) 東大と藝大が連携して芸術・学術特区をつくりたいという計画もあるようだ。

(竺) 大学の研究というのは、先生が研究されている間は研究室に膨大な資料があるが、退官されてしまった場合昔の講座制がなくなり学科目になったために、その研究が引き継がれるとは限らない。そのため資料が散逸することがある。資料を集めて、大学でアーカイブをつくり、全学科で共有しようというシステムとなっている。

(事務局) 様々なアーカイブがたちあがっているということだろうか。

[議案3]

運営基盤の安定化について

資料3に基づき、事務局よりDAASのこれまでの状況、会員数の推移等々を含めた説明を行い、運営基盤安定のための事務局案を説明した。

【以下、口頭での補足説明・意見等】

(事務局) 当初 DAAS のシステムを使って企業内アーカイブスに活かすというサービス、使用料を DAAS に支払うということも期待されていた。しかし、精緻な検索システムは汎用性のあるソフトで組むことができ、企業内のデータベースの構築スピード

が速く DAAS のシステムの魅力がなくなってしまった。DAAS の第 7 期、九月までの間にキッチンとロジックを組立て、まずは検討する体制を考えたい。目的や目標を二月に設定する、等々本資料にある提案スケジュールに寄って進められたらと考えている。また前回委員会にて話をした文化庁の近現代建築資料館の運営委託については、うまく進まなかった。

(竺) 近現代建築資料館の運営を外部委託するという話も出ていたが、結局の所は時間も迫っていたため、まずは文化庁直轄にて行うこととなった。実質の館長は文化庁政策課長が行うこととなった。また運営委員会も設置し、鈴木理事長、国立美術館青柳先生等、実際のアーカイブを行っている人等を含めた。展示室・収蔵室等の施設は完成し、常設展示等は行う予定はあるが、そこまでしか決まっていない。何を収蔵するか、ポリシー等々はまだ決まっていない。展示資料がある場合にデジタル化資料を作成する場合もあり DAAS で請け負うという可能性は高い。

(事務局) 文化庁の資料館への期待度は高かったがもう少し運営委員会での話が進んだところをまつ、可能性がでてくるところをまつということだろうか。DAAS から政策課長への働きかけはもう少しまった方がよいだろうか。

(竺) 座長は鈴木理事長であるので、鈴木理事長と連絡を取って連携について検討するということで良いかと思う。いずれにしても DAAS の存在は文化庁で認識している。

(事務局) 活動の状況を確認しながら連休、4 月から 5 月辺り DAAS の 7 期後半辺りで具体的になればと考える。

(事務局) 国土交通省への依頼内容、運営に関する危機感等は常に考えており、このインキュベーションオフィスに入っている。これまで運営基盤を築く為の試行錯誤をしてきたが、いくつかの失敗点もあったと感じている。特に身を寄せていた団体があったが、同じ事業をしていない、アーカイブに理解がないという問題点で人的支援が見込めなかった。データ処理の派遣社員・アルバイト等の人的リソースしか見込めず、アーカイブについての理解を得られていたとは言えなかった。アーカイブを持っている団体に身を寄せるのが良いのではないか、また事務局 1 人で事業を回しているということも限界を感じている。身を寄せる団体に、人、場所、費用の支援をしてもらえるよう国土交通省より御願ひしないと現状を打破できないと感じている。どのようにしたらよいか、という明確な案を DAAS から出すこと、DAAS を潰せないとしたら、国土交通省はどうしていきたいのかを明確にして欲しいと伝えたいところである。本議案について、担当専門官に事前にお伝えしている。次回委員会にも出席し意見を頂けると回答は頂いている。補助金の交付をして頂くのにも、どの部署、どの担当者に何を依頼すればよいか、ということも省内の状況を確認して、必要があれば専門官にも依頼して他の部署への働きかけを行っていききたい。

(竺) アーカイブスのミッションをどこに置くかということかと思う。先ほどの話のように企業としては、現在は図面も既にデジタルデータ化されている。それでも会費

を払っていると言うことは当初のいきさつによるおつきあいということである。そうなるとう協賛企業にアーカイブとしてあまり還元することができないと状況になっていると言うことである。それにも関わらず会費を頂くとしたらメセナという形で会費を頂くしかない。ということは、DAASに明確な文化的使命があり、それに賛同するから、会費を頂くという仕組みにしていかなければならない。そうなるとう今の会費では高すぎると言うことになる。会費の敷居を下げて会員数を多くする。ミッションの明確さを記して、そのミッションに対して国交省はどのようなポリシーを考えていくか。それに対してどのような補助金を頂くか。やはりこれは近現代建築文化の失われる記録を保全して、皆に紹介・公開していくという文化的事業に賛同して頂く、一般文化財としても建築としてもそのような形でやっていくべきである。JIA-KIT建築アーカイヴ研究所も同じ状況である。費用がなく、大学の研究費で運営している。会長はNPOを設立し、会費をとりつつ運営するという計画があるがなかなかうまくいかない。ミッションを会員に理解してもらえないと言うことがある。そのようにしていかないとアーカイブが存続しない。それ以外の目的は考えない方がよいのではないかと考えている。

(事務局) 資料が役に立つ機会として、リノベーションなど、社会資本を活かしながら維持していくという仕事がある。そのような時にビジュアルの資料、写真を参考にすることがありデジタル化されたかつての図面等があればハンドリングもよくなる。そうならば研究者でなく新しい事業として担っていく技術者が求めるものになる。それは全体量からするとごくわずかであるが、企業が賛同するためのミッションがないと、となるところではないかと考える。世の中の変化に伴い、DAASもこれまでと同じようには社内への説明もできなくなっている。その為にもミッションが何かは必要なことで明らかにして正して行く必要がある。それは事務局内で話をしても進めることができないため、委員の協力を得たいと考えている。

(鈴木) 法人化についてはどのようなになっているのか。

(事務局) 国土交通省と現場の意識には差異があり、基盤が整備されていないという状況では鈴木理事長へのご迷惑がかかるのではないかとという危惧があり、法人化に賛同頂けない。しかし、契約一つについても鈴木理事長個人の名前で御願ひしており、また業務委託を受ける場合もDAAS単体で公募できないこともあり、現場としては法人化をする方が良いのではないかと考えている。参考資料として平成17年度の目指していたものなどがわかるものを添付している。

(竺) 国立のアーカイブとして様々なアーカイブのセンター機能を担って欲しいと申し上げている。またデータベースの共通で、ベーシックな作り方、ナショナルスタンダードが出来れば良いのではないかと考えている。

(事務局) DAASのフォーマットを利用出来たらと考えていたところはある。

(竺) 次回委員会で参加してもらい、どのようなデータフォーマットでどこが共通なのかというところを説明してもらおうということも考えたい。来月の建築アーカイブ小委員会の開催予定があるため、その際に参加してはどうだろうか。

(事務局) 委員会への出席は検討したい。DAASのフォーマットを利用出来たらと考えていたところはある。今回の委員会では現状報告となってしまったが、今後は先ほどお伝えしたスケジュールで発信していきたいと考えている。運営委員会の頻度を上げて開催する、国土交通省のご意見を伺う機会として開催する、なども検討したい。委員のご協力をお願いしたい。

[議案4]

アーカイブサービスについて

資料4 アーカイブサービス実施については資料を確認頂き、詳細を詰めて改めてメール審議等の形として発信したい旨、事務局より説明を行った。

本議事録にて追記事項

鯉坂委員・竺委員より、海外では有償の図書館があり、その図書館との契約により収入事業等が検討できるというサービスについて提案を頂いた。ARTStorがデジタルデータベースを日本で展開しており、代理店として丸善が関わっている。商用利用は有料であり、学術利用は無償という設定がされている。日本の写真を提供することでDAASも交渉ができるのではないかと考えている。問題としては、DAASのデータ提供者・著作権者への確認の必要と、現在のDAASが無償での会員登録で閲覧出来るようになっているが、その点を有償利用にする場合は制限する（サムネイルのみにする等）のWebでの閲覧ポリシーの変更が必要となる。

以上